

‘紅まどんな’の果皮障害対策

水溶性カルシウム剤の3回散布で、果梗部のクラッキング発生割合が低下し、果皮はやや硬く、正品率が高まる傾向がみられる。引き続き、カルシウムの種類、散布時期の検討を要する。

試験区

供試樹：雨よけハウス
高接ぎ16年生紅まどんな
供試剤：水溶性カルシウム
(硫酸Ca57%、塩化Ca27%含有)
散布日：7/23、8/12、9/9
散布濃度：300倍
散布方法：樹別散布
収穫日：12/6
経費：1,500円/10a/回



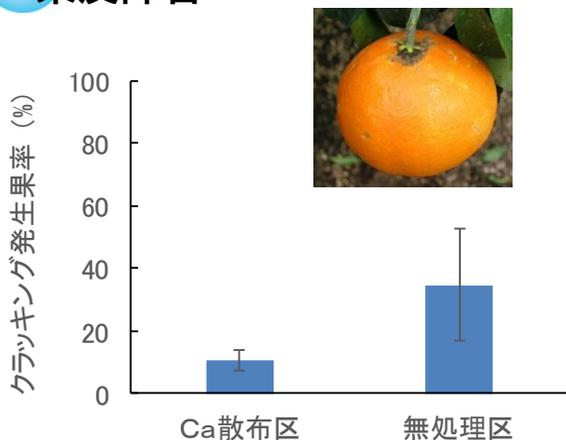
収量、階級

生産目標は、2L以上の果実割合70%以上

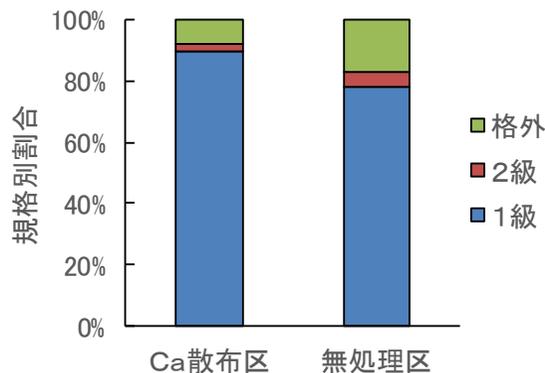
試験区	収量 (kg/樹)	階級割合(%)		
		3L以上	2L	L以下
Ca散布区	58.3	30.7	45.8	23.5
無処理区	53.2	24.4	45.4	30.2
有意性	ns	ns	ns	ns

注) 収穫日：平成28年12月6日 t検定によりns有意差なし (n=3~4)

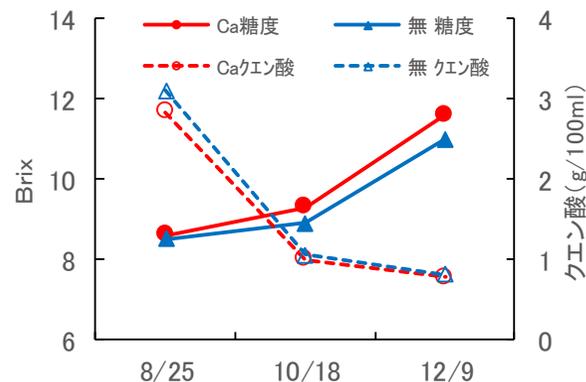
果皮障害



正品率



糖度



Ca散布区は、果梗部のクラッキング発生割合が低く、1級品果率は高い

果実品質に差はみられない